

定期総会盛会に終る

51年度事業計画案すべて可決



総会風景

今年度の定期総会は、第一号でお知らせ致したように、規模を拡大し、一大進展を期し、画期的な計画の下に、昨年母校の七月の文化祭と併せて行なったのをやめて、場所も市街地の文化会館に移し、八月の二十二日(日)に行なわれ、最初一般公開としての記念講演がなされ、慶大教授・池田弥三郎先生の講演とあって、多数の人々が集まり、有意義な講演会となった。講演後総会に移り、総会実行委員の方々の御骨折りにより、スムーズに運び、五十一年度事業計画案がすべて可決された。なかでも資料委員会の設置と資料室の充実及び会則の一部変更は特筆すべきものである。会則の一部変更は、事由としては、特別基金の新設と維持会費

納入方法によるもので、次の通りである。
 旧・会則第十三条 本会の経理は、入会金・維持会費並びにその他の収入を以ってこれに当てる。
 新・会則第十三条 本会の経理は、入会金・維持会費特別基金並びにその他の収入を以ってこれに当てる。
 旧・会計細則 第二条 維持会費は毎年一、〇〇〇円とする。
 新・維持会費は毎年一、〇〇〇円とする。但し、納入方法は毎年一回払いと、六年分五、〇〇〇円の先払いとを設け、各自の自由選択とする。
 第三条 特別基金の運用は、評議員会において決定し、総会に報告する。(新たに設ける)
 又、総会後の懇親会も大変な盛会で、会場に同窓生が満ち溢れ、校歌・応援歌を一同で歌い、在校当時に想いを馳せ、誠になごやかな一時であった。

第12号

長野県飯田高等学校同窓会 会長 二 郎
 発行人 賢 邦
 編集人 沼 邦
 印刷所 印刷 (株)
 長野県飯田中菅 飯田共同印刷

長野県飯田高等学校同窓会会則

- 第1条 本会は長野県飯田高等学校同窓会と称し、母校内に本部及び事務局を置く。
- 第2条 本会は会員相互の親睦、向上及び母校との連絡をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は前記の目的を達成するために、講演会・研究会・名簿発行・会報発行その他適切な事業を行なう。
- 第4条 本会の会員を分けて、次の2種とする。
 - (1) 正会員 母校(飯田中学校・飯田東高等学校併設中学校・飯田東高等学校・飯田高松高等学校・飯田高等学校)に在学した者。
 - (2) 賛助会員 母校教職員
- 第5条 本会に次の役員をおき、任期はそれぞれ2ヶ年とする。
 - ・常任役員
 - 会 長 1名、幹事会に於いて正会員中より選び、総会にはかり決定する。
 - 副会長 4名以下、同上
 - 監 事 2名 同上
 - 会 計 2名、幹事互選による。(内1名は校内幹事がこれに当る)
 - 校内幹事 正会員にして母校在職中の者及び事務局職員がこれに任ずる。
 - ・役 員
 - 幹 事 若干名 評議員より互選
 - 評 議員 若干名 各年度会員より2名以上を互選する。
 - 支部委員 若干名 支部は適宜これを設け、正副支部長及

- び委員を若干名おく。
- 第6条 本会に顧問を置く。顧問は学校長並びに特に本会に功労あった会員を会長が推薦して総会にはかり決定する。
- 第7条 本会の集会を次のように定める。
 - 定期総会・臨時総会・評議員会・幹事会・校内幹事会・常任役員会
- 第8条 定期総会は毎年1回、会長がこれを招集する。
- 第9条 本会正会員は入会金を納入するものとする。
- 第10条 本会正会員は維持会費を納入するものとする。
- 第11条 納入済みの入会金・維持会費は一切これを返却しない。
- 第12条 本会の会則の変更は、総会の決議に基づいてこれを行なうものとする。
- 第13条 本会の経理は、入会金・維持会費・特別基金並びにその他の収入を以ってこれに当てる。
- 第14条 会計細則は別にこれを定める。

会 計 細 則

- 第1条 入会金は1,500円とし、納入の時期は入学又は入会の際とする。
- 第2条 維持会費は毎年1,000円とする。但し、納入方法は毎年1回払いと、6年分5,000円の先払いとを設け、各自の自由選択とする。
- 第3条 特別基金の運用は、評議員会において決定し、総会に報告する。
- (附則) 本会則は昭和51年4月1日より実施する。

総会特別記念講演

「日本人の心の傾き」

慶大教授

池田彌三郎先生



信州というところは、柳田国男先生や折口信夫先生のとっては、民俗学の宝庫だといわれてきたところだ。飯田へは昭和二十六年以来ですが、大きくいつて伊那というところは吾々にはかなり縁が深いところであり、信州の味が染みついていくわけだ。

伊那には「影か柳か」との勘太郎というのがあるが、明治維新の頃の人物としていられるので、この勘太郎、私の友人の話では「あれは映画監督の稲垣浩という人物から出来上がったんだよ」ところが、驚いたことに伊那へいったとき、勘太郎の顕彰碑が立っている、そしてその碑があるんですよ。これは面白いと思いましたが、国文学や民俗学の方で、昔の事を調べていると或いはそういうこともあるのではという気がしま

す。伝えられる人生には一つの型があつて、その型を辿ってゆくと或いは事実でない、伊那の勘太郎のように机上の創作であつてもそれが伊那という土地を背景にだんだん人の心の中で実在性を色濃くしてしまふ。そういう人物が日本にはないふんいるのではないかと気がします。伊那の勘太郎を否定する気はありませんが、日本人の物の考え方が何かそういうところから手がかりを得て、考え進めてゆくことがあるような気がいたします。

例えば、人生でも、生湯の井戸」というものが不思議に伝えられています。しかし、何故これが伝えられているのか——歴史の先生は少しも説明してくれませんが——「首洗いの井戸」などというものも問題になる。斉藤実盛のように有名な伝説をもつ人物なら意味があるか

もしれませんが。そうでない人物までも問題になっていく。何故人生の終りの首洗いの井戸というものが伝えられているのか、或いは日本人がそういうものを考えようとする心を持ったのか、ということを追求していくのです。無理に説明づけようとするれば出来ないことではないかもしれませんが、生湯の井戸とか首洗いの井戸について柳田先生・折口先生なども明確な説明がなされていらないと思ひます。

また、徳川家康の紋章は葵ですが、どうして葵になったのか——よく調べてはありますが——豊臣秀吉は千成瓢箪久牛です。秀吉の場合には墨俣の戦で水に沈まない瓢箪を合図にし戦に勝ったということから旗印

になったという伝えがあります。ところが、久牛と葵というのは平安時代の宮中で行なわれた相撲の節会では左方葵、右方久牛で何か対立、対抗を表わしています。これと秀吉・家康……偶然かもしれませんが、それ以来日本人には長い間日本を東西に分けて最手を以て対抗する。それに久牛と葵が出てくる……誰かはっきり説明して貰いたいと思ひますが、不思議な事が個人の生涯にからまりついておられます。

伊那の勘太郎から思いついた事ではありますが、近づいてゆくとなくなってしまう土地や個人というものも日本には多い。あの有名な「園原や末の帯木」というところも近づいてゆくと所在がわからなくなってしまう。お夏、清十郎のお夏など近世において浄瑠璃その他で活躍している人物も、追求して近づいてゆくと茫

漠としていなくなってしまう。また民謡みたいなものの中から生まれた人物は近世には非常に多い。西鶴五人女のおまん、源五兵衛のおまんも、おまえさん、おまはんから出てきて実在性を持った個有名詞になる。はやし言葉の「げんご、げんご」から「げんごべえ」という人物が「さんざぶろう」といふように出来上がった。こういうのが人生に優先するといふか人生より先に立つて人生の型があつて、その型の中に実人生がはめ込まれていくような気がします。そういう人物を生み出す心の動きが、日本人の心の傾きの中にあるのだと思ひます。

別の例では、京都に大変人気のあつた水木辰之助という人物がおりましたが、その辰之助が江戸へ出て帰るときのお名残り狂言なるものの台本が現在も残っており、それによると、有馬のおふじという女が主人公になります。有馬温泉の湯女であるこのおふじも尋ねてゆくとなくなってしまう。この女もやはり民謡から出てきた人物なのです。我々はそういう類型を調べてゆくと、日本人の好みとか考え方の傾きといふものがつかめていくのではないかと気がする

わけです。民俗学という学問は日本で生まれ日本で発達した学問であるという点とです。日本人の一位位が関係していると思われる短歌とか俳句というものがあつて、この短歌なり俳句は今迄どうも不幸な目にあつてきた文芸のような気がしますが、これらを除いてしまえば日本文学などというものはなくなってしまうのではないかと気がしますが、まだ日本文学史上に本當に位置づけられていない気がしますが、その理由のひとつは、明治以後の新しい近代の文学史というものを研究した人達が、外国の文学理論によつていくからだと思ひます。私共が柳田・折口先生の教訓を文学の研究の上で生かすとするれば短歌や俳句も含めた材料から日本文学の理論を吸みあげていかなければなりません。そうすれば日本文学史上に安定していくと思ひます。とにかく非常に解らないことが多いのです。

例の五・七調なり七・五調という調子の問題です。何故この調子が長い間日本人の心をとらえているのか、明治以後、所謂新体詩などが出来ましたがすぐに五・七調、七・五調になつてしまふ。日本人がこの組合せに何故魅力を感じているのかよく解らないのです。さて、万葉集の中の心を調べてみると、挽歌として万葉に残された歌では、三つか四つ程度しか材料が使われていないのです。少なくとも子供が親の死を悼んだという歌は一首もありません。古今集や五撰集にもありません。——ないという証明は難かしいが——子供の誕生を祝う歌もありません。万葉集には当然うたつてもよいと思われる歌がなく、そこに何か特殊な日本人の心の傾きというものがあつたような気がします。古今集などをみても、自分の父親や母親が亡くなった歌や自分の子供が生まれたことを喜ぶ歌がない。それからずいぶんと朝鮮や中国へ渡つていく歌人が多いがその地のうたも残っていない。文学なり文学類似のものから日本人の心の動きを調べていく場合に人生とは関係なく、或いは人生に優先して文学の世界が出来上がつてしまつていて、父が死んだとか、子供が生まれたとかいふことを題材にして日本人の心を調べていても片手落ちなのです。つまり、日本人は一体何を喜び何を悲しみ何に怒つたのか、これらをもう一度我々はやり直す必要があるように思ひます。

柳田先生は「幸福の記」

資料委員会が発足

という随筆を残していられますが、日本人の幸ということをお知らせ。それには賑やかに海山の食物に恵まれて豊かな新しい年を迎えることができる、本人達ばかりに留まらずかえってくる祖先達を歓迎できる、そのために豊かな食糧が自分の家に集まってくる、それが日本人の幸であった。また、万葉集の中に心を残した人々からは、夫婦共白髪まで生きてゆくことが人生の幸であるということがわかります。

いろいろなところから手がかりをみつけ、日本人が何を喜び、何が幸と考えたかというところをつかまえたかと思えますがなかなかわからないことばかりで私としてははじれたい気が致します。

日本人の心の傾きというもの日本人でなければ説明できない方法でお互いに少しでも考えることが出来たらと思います。

信州へ来て柳田・折口先生を思い出すことしきりですが、両先生が日本の学問として民俗学を起こされた日本人の心を日本のことと説明されていこうとされたことは私共忘れてはならない大事なことだという気が致します。

(文責・編集者)

(中四三)より寄贈を受けて、最も古い写真として信毎に提供することが出来た。我等が学校史を編纂するにしても、沿革はあってもその肉付けとなり血となる資料の蒐集如何によって歴史は価値づけられるものである。

緑茶の思い出・二題

中43 今村 善之助

その一・ハンブルグの玉露
私達は外国に出かける時在留日本人への手みやげとしてしばしばお茶や海苔を持参することがあります。私も商用で三十数回外国旅行を経験しましたが、多くは、何れにしても委員だけでは不可能で、全員の協力が必要であり、委員は音頭取りであり、連絡係であるわけで、資料の提出は会員各位であるわけだ。

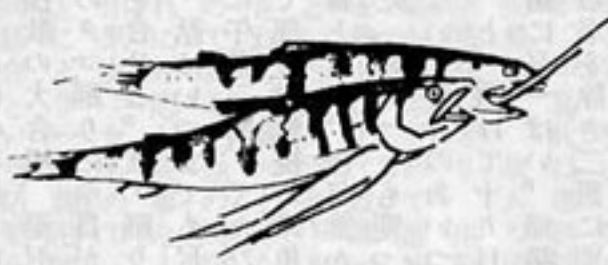
先頃信濃毎日新聞社が、「長野県中等教育百年史」の編集に着手され、古い資料の提供依頼があったり、又県の教育史編集委員は生徒の自主的活動の資料蒐集に來校されたが、例えば校友会誌は第十五号(明治四十四年)以前はなく、その後のもも揃ってはいない。写真では明治三十二年の校舍落成式(現長姫高校本館)のものがあるが、新井智氏

ろう。先輩の日記や記憶等に頼らねばならぬとしたらもう生存者の居ない回もある。「一刻も猶余は出来な問題だ」と叫ばれた委員が居られたが、聞く者の胸に鋭く喰い入ったことと思

その二・ラントウブラバットの玉露
一九六七年七月、通産省の委託でインドネシアの森林調査に出かけた。私達調査団は御多分に洩れず在留邦人へのみやげとして玉露と羊羹を持って行った。スマトラの中部、北スマトラ州の南部のラントウブラバットの市の郡政府長官イワンマツム中佐に許可書を貰うべく訪問した時、セイコー腕時計とペンライトと共に親日家のイワン中佐へのスペシャルプレゼントとして玉露一缶と羊羹一棹を進呈した。
中佐は大へん嬉しがって戦争中、日本の軍政府のポイイをしていた頃に、時々食べたやうに呑んだと云っていた。
夕食後中佐は「いただきます、お茶をくれたから飲んで下さい」と云って令嬢(北スマトラ大学生)がコーヒークップにお茶を入れて運んできた。一行はこのカップに入れたうす緑の茶を一口飲んで、一様に妙な顔をした。「玉露」に砂糖が入っていたのである。私達は中佐に、日本茶には砂糖を入れないと説明するのに手間どった。中佐の感覚では、紅茶でもコーヒード砂糖を入れるのに何故日本茶には砂糖を使わぬのかと今まで不思議に思っていたと云った。

日本人は戦争中で節約の為砂糖を使わなかったと思っていた……と彼の少年時代の思い出を話した。砂糖は中佐のスペシャルサービスタだったのである。
私は、親日家と一口に言っても、各国のお国振りや人々それぞれの立場によっていろいろと差のあるものだと思つた。
十余年前貿易拡張の為、英語もろくに話せない私が苦勞して世界各国をまわっていた頃の、お茶にまつわるほろにがい思い出の一端である。

(名古屋市在住)



学校購入校地(運動場用地)内の高松原遺跡の発掘について

長野県考古学会長大沢和夫氏・前長野県文化課指導主事宮沢恒之氏指導のもと、調査団は本校同窓生を中心に編成(考古学研究会OB考古学班員を主体)され、一般の工夫の手によらず、高校生の自主的参加により、分布調査を実施し、遺構概要にもとづき試掘調査により確認された縄文時代の土



遺跡発掘作業 生徒の労力奉仕 (51年8月)

から人夫二十一名により発掘を実施した。グラウンド用地内全体の遺跡の全ぼうをつかみ、多くの発掘資料とともに、高校生による調査研究の可能性についても材料の提供がなされた。

以下調査団による発掘調査結果、高松原遺跡について報告する。

高松原遺跡は下伊那郡上郷町高松原に所在する縄文時代中期後期と弥生時代後期の集落址である。

現天竜川河床より五段目に当る竜西洪積段丘の先端に位置するが、ここは下位沖積段丘面との比高は大きく、一万高松原南西を限る野底川と松川が深く大きな開析谷を刻むため、水便悪く高燥さを増す原因ともなっている。現状は上方から誘導された井水による桑園

中心の畑地で標高は四七〇mを測る。

検出された遺構・遺物

- 弥生時代後期住居址三五軒
- 土墓 二基
- 堀立柱建築址 八基
- 溝状遺構 三基
- 縄文時代中期土器 八七基
- 遺物
- 弥生時代後期土器 四〇点
- 石器一〇〇点
- 石製品 一〇点
- 土製品 二点
- 鉄製品 一〇点
- 植物炭化種子一〇〇粒
- 縄文時代中期土器 三点
- 石器一〇点

予想をはるかに越すもので、これに伴ない現在伊那谷弥生文化の考究の上から不明とされてきたいくつかの問題解明のために資する資料性高いものの抽出がな

された点は大きく評価されてよい。今回調査の結果得られた主なもの、

(一)弥生時代後期の集落構成に関する資料の提示。

三五軒の竪穴住居址を中心とする遺構群を観察すると、通常の住居址にも大小があり、集落共有のものと考えられる堀立柱遺構、典型的な土墓の検出など含めると、住居を中心とする集落構成上、必要な構築物がほぼ揃ったことになる。このような遺構配置のありさまは、従来分り明かされてきた集落問題に与える示唆は実に大きい。

(二)弥生時代後期の土器型式問題に関する資料の提示。

伊那谷における土器様相の変容は、在地の土器が、当時の先進地帯の一つであった。東海地方からの文化浸透によってなされてきたととらえられている。今回発見の土器群の中には、東海地方からもたらされたものがかなり混在しており、これらのものの分析を通じ、特に該当する座光寺式土器群の研究は飛躍的に充実するであろうことは疑いない。

(三)植物炭化種子と生産に関する資料の提示。

五軒の住居址内から約一〇〇粒のムギ・コメ・アワの炭化種子が発見され、また生産具の中心をなした石器類の発見と合わせ、高燥

高3回 諏訪に集る

大野 英 夫

九月十八日、上諏訪「かめやホテル」の受付に現われた諸兄の中には失礼ながら全く名前の思い出せない顔もあった。その筈だ。私は二十五年も彼と逢っていない。堂々と腹の突き出た男、白いものも混っている。額の広くなった男もいる。どこから見ても紅顔の美少年だった頃の映像と合致してこない。しかし誰も彼も年輪の重みを身につけ、社会の中堅らしく、頼もしい男の顔が決まっている。前夜作っておいた名札が予想通り役に立ち皆遠慮がちにお互いの名札を確かめ合っている。

昭和二十六年春飯田高校第三回生として卒業した我々の同級会が東京二六会・飯田赤石会の発起、諏訪地区在住者諸兄の設営でましまり、「かめやホテル」を借切って開かれた。集った者五十七名、皆二十五年振りの顔、思わず堅い握手が交わされる。

開会に先だち物故同級生の慰霊祭を行なう。祭壇には親友が持参した遺影・遺品が飾られ、館野洪道和尚の説教の流れる中、故人の冥福を祈る。発起人・地元幹事等の挨拶、記念撮影も終って六時半酒宴となる。一通りの自己紹介が済めば全員顔と名前が合致、つむむの話が一気に花開き、せつ



なる共積段丘上に展開された弥生時代後期の生産問題は、具体的には遺跡立地とのかかわりの中で高められることは必定と思われる。

一〇〇粒の炭化種子と石器群は、これらの検討に充分たえられるものといえる。

造成中のグラウンド↓

かく侍らせた諏訪の美女もそっちのけの有様、校歌・応援歌の大合唱、湯沢末吉君のタコ踊りに全員が手拍子を合せる。歌・踊り・痛飲・話はいつまでも尽きず、遂に午前三時、くたびれ果てて部屋割無視の雑魚寝で閉幕となる。後日誰かが言った「皆ちっとも変っちゃいない、皆昔のあいっだった」と。明けて十九日、朝の膳に又一ぱい。帰路を急ぐ数名を除き二班に別れてゴルフとビーナスラインの観光ドライブに出発。秋の訪れを告げる高原の空気を満喫、午後三時茅野駅で解散となる。昨夜誰かがオリビックの年毎に又やろうと提案した。誰もがそんなつむむりの握手を交した。

母校同窓会報に「同級会とはこんないいものか」と先輩が書いていた。今回集まった諸兄も皆そう言ってくれているだろう。私はじめ幹事役を務めた諸兄も骨折り甲斐があったというものの。たゞ今回は準備不足のため関東と県下にだけ呼びかけたため、この報告を読まれて俺には連絡がなかったぞと言われる方もある訳だ。次回には全員に呼びかけたかと考えているので、その時はぜひ参加して頂きたい。次のオリビックは昭和五十四年にある筈だ。

坤神永久に

大沢 和夫

その一

同級会に行くに必らず校歌「赤石山は嶺々として」の次に出る歌が「坤神永久」である。この応援歌は私が飯田中学校三年の時大正九年に作られたものである。当時飯田中学野球部は郡下青年野球の雄であった。というのには県下中等学校野球大会、今の甲子園大会の子選は年一回松本が長野で開かれるのみで、当時は他校とは少し差があったらしい。飯田商業(長姫)も下伊那農学校も伊那中学(伊那北)も、勿論阿智・阿南飯工も創設されていないので練習試合はできなかった。電車も飯田には達してなかった頃である。

大したものだ。もっとも後にお話をうかがうと国語の岩本先生(後に飯田中学校長として再び来られた)や小町谷先生・宇波先生や佐々木八郎先生(早大教授・文博)らが少しは手を入れたらしい。この時当選した応援歌に「長姫城頭空高く応援の旗ひるがえり」「稔る稲穂の帽章に希望の光かさしつづ」「黒雲湧けよ風ほえよ夢を破れる健闘に」があった。これらの歌が「戦前の曲」「戦中の曲」「勝利の曲」とわかれていた。

勝利の曲は神聖であった。戦の前や試合の進行中には絶対にうたわれなかった。いよいよゲームセット、我軍勝ちぬそこではじめて「坤神永久に」と心の底から若い魂をふるわせて大声で歌ったものであった。昭和十二年教員として母校に戻って来た時、クラスマッチで「坤神永久に」がうたわれて驚いた。うれしかった。母校だなあと思いを深めた。ただその時勝利の曲は勝った方は勿論であるが、敗れたクラスも音高く唱っていたことを憶えている。

追手町を下って学校(今の長姫高校)へと帰った。その時の勝利の曲の味は集まった古稀を過ぎた同級生の誰もかも知っていた。香ぐわしい青春の感動である。

その二

昭和十二年飯田中学へもどった私は敗戦後の二十二年度まで母校に御厄介になつたが、その時の「坤神永久に」についての思い出を記したい。

前に記したように勝利の曲も十数年の風霜を経て、負けた方でもやけ気味に歌われるように変わって来た。それとともに「今や我等は勝てるなり」の次にトッサッサという合の手が入っていたことである。はじめ作られた頃は「勝てるなり」と歌って沈黙静止をした。そのあいだ勝利のよろこびを一層高めた私は思った。そして、同僚の故坂井武君(中23)と相談し、トッサッサはやめるように命令した。考えてみれば独裁専断そのものであった。時代の流れも生徒の志向も何も考えず命令で止まったわけでもなかったが、当時の生徒諸君に申訳ないことだったと思っている。その頃の卒業生諸君よ諒とされよ。

ただ長年愛誦されているうちに変に訛ってしまったことだけは先に生まれた者として言っておきたい。

〇輝く夕シ背ににない
〇折伏降魔の太刀風に見よ
イニシメスケン敵は剣取めてカカルルを
は何とも意味が通じない。
全文を書いておく。

一、坤神永久に地にひそみ
猛鷲翼をたたむ時
輝く夕陽背ににない
今や我等は勝てるなり
二、折伏降魔の太刀風に見よ
往にし日の勁敵は
剣取めて隠るるを
今や我等は勝てるなり
三、橄欖の葉に映ゆる月
若き雄姿(勇士?)を照らす時
勝利の誇うたいつつ
今や我等は勝てるなり
(附記) 知ったかぶりで歌詞を書いたが、原本で確かめたわけではないので、違っていたら是非訂正をいただきたい。

(中二二回生 旧職員)
高松原遺跡調査団長



同期生会(同級会)の紹介

同期生会(同級会)は同窓会の基幹として支部組織と共に重要な存在であるが、最近同級会の便りが事務局へ多く寄せられるようになって感謝に堪えません。随時随所に大小の同級会が持たれ、時には何期か合同で行なわれるとか、又は〇〇県の一角で数人の同級会を行なって母校に思いを馳せたとかいろいろあるが、さすがに旧中学時代の先輩連はその交わりも深く、まともにも高く、場所を変え旅行を兼ねて行なうとか、或は同伴でとか親睦を深めておられる同期会が多いようである。

その中で今回は代表的な一・二を紹介しましょう。

(一) 学而会(中三十一回)

此の同級会はあまりに有名であるから説明を要しないかも知れないが、本部に寄贈された文集「学而」だけでなく昭和四十五年以降七冊(版二三号/二九号)その間には年間二・三回会報を出して消息を知らせ合ったりしている。その文集は凝ったものでカラー写真も入っているし、すべて手刷りの芸術的なもので、内容

も量も豊富なものである。それによると、同会は毎年のように岡山市とか日立市とか級友の住む土地を拠点に出向き、未亡人も参加して見学を兼ねて同級会を催しておるといふその友情はうらやましい程である。

(二) 中学三十回

五十年三月から五十一年五月まで、毎月一回会報を発行して、毎回数名宛の同級生の伝記(我が歩みし道)を載せ、最後の二号は故人の分をも載せて完了している。また毎月最初の土曜日を一土会と名づけて、所定の場所に都合つく者が集まり昼休み時を話し合うことにしておられる。中島君男氏の発案と努力と聞いていたが、中島氏は事務局へも数回見えて、故人の調査など学籍簿により、在籍地の役場からはじめて遺族や親戚を探し出しては調べて行くという誠に頭の下る努力をされて、調べ上げられたものである。他の同級生もこれに呼応し見事な人物誌が出来上がったもので、このことにより一層親密度の高い同級会という結果をもたらしている。

支部だより

下久堅支部

八月十一日天竜河畔福梅にて開催される。議事の中に役員改選の件があるが、支部長三石栄氏(中15)が三年前前から辞退を表明して毎回提出し、その都度会員の懇望止むなく今日に至ったもので、今回漸く宿願かなって改選が行なわれた。支部長 池田寿一(中23) 副支部長 山下順蔵(中24) 幹事 山下秀人(中38)、小池順(中45)、高橋勉(中45)、宮川豊夫(高5回) 他、地区世話人は、従前通り、前支部長は顧問におさまる。

竜丘支部

八月二十日時又の公民館で結成総会が持たれ、本部からも中島会長が出席して祝辞を申し上げ、この日の準備に努力された方々の御苦勞に敬意を表された。支部長 中田 剛(中18) 副支部長 清水又美(中19) 幹事長 伊原春男(中22) が選出され、懇談会に移り時間の経つのも忘れて話し合った。

橋北支部

九月五日午後七時江戸町消防会館で開かれる。このところ暫く中絶していた支部であるが、新しい組織で出発した。名簿によると在住会員は二〇〇名近い大世帯であるが、今回の出席者は僅か三〇名足らずで、会則審議・役員選出など主として組織作りの問題で終って懇親会に移る。

上伊那南部支会

十月二十三日(土)赤穂町岩田屋に総会が催され招かれて出席する。駒ヶ根支部(赤石会)が発展して上伊那南部部を包含し、会員百二十名を容する大支部となった。駒ヶ根市の発展と共に此の地方に職場をもつ会員がふえ、若い人達の参加が目立ち威勢がよい。会長北原名田造氏(中11回)が健在で翁の人柄に依るところ大であろうし、又副会長になった高坂宗一氏(中26回)が地元飯島地方南部を代表しておられることもあるが、何よりも若い幹事さん達の努力が大きいようである。今席も会長さんは創立九十四年の歴史と校歌の作者福沢悦三郎先生を語り島地初代校長の頃を話された。特に若い人達はこうしたこと、学校の歴史を知り、温古知新といふべきか、そうして現代の高校教育を考えたことであろう。

第十三回関西支部連合会を

ミノオ山荘で、来年は神戸。

幹事 中塚春男 (中36回)

心配された台風十七号が去った九月十五日敬老の日秋晴れの一日、第十三回関西支部連合会を大阪府箕面市のミノオ山荘で開催した。阪急電鉄箕面駅集合、山荘マイクロバスで会場へ、箕面市内が眼下にある展望台で記念撮影、十一時半定刻に三十分遅れて開会、代田支部連合会長(中17回)、松崎大阪支部長(中19回)の挨拶、来賓の中島同窓会長の御挨拶、熊谷事務局長の本部報告、中塚支部幹事の会務報告の後、松沢喜四男氏(中24回)の音頭で乾杯、懇親会に入る。会員三十名、家族六名の出席、相変わらず返信さえ出してくれない無関心者の多いことは幹事泣かせ、それでも毎年数名の新顔があり、概ね願ふれが決まって来たことは会運営のためによるこぼし。来年からは返信のあった会員を対象に「気心のおかた者の集り」そんな会にして行きたい。今年も夫人同伴組、女性会員の参加もあり、若い会員も多くなつて、大いに飲み且つ食べ、話もつきず盛会であった。来年は神戸で再会を約し三時半散会した。(後略)

大鹿で中二七会

横井和夫

中二七回は卒業五十周年を明年に控え、その前年祭として本年度の総会を十月二十四日紅葉燃える辺境、大鹿で開いた。

て進み、蒼い空と水、紅葉、峻な山々といった美観は、カーブの都度変化を見せ、知られざる秘境の絶景に一同ヤンヤの歓声が車内に満ちた。途中の解説は級友林重春元大河原中学校長が当ったが、三六災害当時の惨状に茫然とし、信濃宮に宗良親王を、重文福徳寺に鎌倉時代を偲び、夕刻宿舎へ入った。

赤石荘は大河原上蔵に昨年オーブンしたばかり、標高千メートルの小波から引湯している単純硫化水素温泉で不老長寿の湯といわれ、この山中によくぞと思う程の村営施設だ。こんこんと尽きぬ湯に浸り、旧友と背を流しあう間もなく集合の声、懇談会に先立ち物故者四十一名に黙禱を捧げて冥福を祈り風雪五十年を想起する。(中略)

翌朝は紅葉を縫ってさらに釜沢温泉、宗良親王幽棲の地御所平にまで車を進め小河内岳や赤石岳を背景に記念撮影、飯中当時の南ア登山談に話の花を咲かせつつ下山し、再会を約して別れた。

松川支部

九月五日午後二時より福祉センターで開かれる。これは既に支部規約に従って各地区の世話役が会費集めなどやっております、組織的に

長野支部

九月二十八日裾花河畔の警察共済旭荘に午後六時より開催、北信東信を含めた四百名近い大世帯で、既に

九月五日午後七時江戸町消防会館で開かれる。このところ暫く中絶していた支部であるが、新しい組織で出発した。名簿によると在住会員は二〇〇名近い大世帯であるが、今回の出席者は僅か三〇名足らずで、会則審議・役員選出など主として組織作りの問題で終って懇親会に移る。

同窓会は何処でもそうであるが、こういう雰囲気の中では、総合選抜制には異和感を抱くようである。(熊谷・記)

集った者二十五名、まず伊那大島のりんご風呂へ合流し、宿舎赤石荘差し廻しのマイクロバスで現地へ向った。車は小波ダムに沿っ



学校クラブ活動紹介

(水泳) 二年 中島みゆきさん

総体・国体に出場



中島

本年の水泳部は中島みゆきさんの活躍で面目を保った。男子は少々陰が薄いと

いうところである。本年度二年生の中島は一年、県水連から総体強化

選手に指定されたが、初年度はフォームを矯正したばかりで自分のものになつて

いなかっただけ、振わなかつたが、本年はシーズン初めから積極的に練習に励み、

見違えるように成長した。南信大会では百米・二百米平泳ぎに新記録で優勝、県大会では二位と一位で北信

越大会への出場権を獲得し、この大会では百・二百共に

(野球) 地区リーグ三位

来年度に期待

春の県ベスト8の勢いに乗じて、今年こそ甲子園へと壮絶な特訓に耐えて野球部は燃えに燃えた。選抜出場

引退した新人チームは故障者続出で一年生中心のギリギリメンバーにもかかわらずお盆返上の夏休み猛練習で実力をつけ、戦力ガタ落ちとの下馬評をくつがえして、天竜を打破して地区リーグ三位で好調の波にのって、選抜兼神宮大会予選では、清陵をまったくよせつけず、優勝候補の強豪岡谷工を破り準優勝に歩を進め

殉職同級生三十三回忌

中四四期事務局

昭和五一年八月一八日長い夏の日差も名古屋市の南端、三菱重工の窓に夕べの影を落とすとき、今は懐しく悲しき思い出を胸に、卒業以来三〇余年ぶり、恩師大沢和夫先生を囲む全国より集った同級生六〇余名が、工場の一角に建つ「殉職の碑」前に、学徒動員中あのいまわしき大地震に殉職した同級生佐々木得一、高田厚敏、本郷哲夫、牧島恒、吉川光夫五君の三三回忌の法要を瑞雲寺住職滝本慈真導師読経のうち、しめやかにとり行なわれた。

赤な太陽が宝生池に沈み、故郷を思い腹がへって腹がへって食堂を欺いて二度食べた御飯。そんな日常のうちには我々は陸軍の新司偵三型(機体番号キ四七)を製作した。動員以来百有餘日、運命の二月七日午後一時四七分突如襲った大地震(後に東南海大地震と云う)に、一時工場内は阿鼻叫喚紛乱の極に達し右往左往する人々、倒壊した建物より巻き上る濛々たる塵埃、人々は全く茫然としてなすすべを知らなかった。約三〇分後飯中生は広場に集った。十名ばかり友がいない。段々調べていくうち本郷君は頭部負傷で病院へ、牧島君は煉瓦の下敷きとなり一時間後、ようやく救出。両脚骨折にて三菱病院本院へ。佐々木・高田・吉川三君は行方不明の後、工場の梁などの下敷きとなり斃れ。入院の本郷君は八日午前一時、続いて九日午後一時三〇分牧島君も逝く。

二位に入賞し、この下伊那からは初めて全国大会への出場権を獲得した。また、県国体予選会では優勝し、佐賀国体への切符を手にし、県代表として参加した。又、長野・山梨・群馬県の三県対抗水泳大会にも県代表として参加し、百・二百米平泳ぎに優勝、メドレーリレーでは県新記録の立役者になり大活躍をした。

その他の大会の成績は次のようである。

○南信大会 男子 総合三位
○県大会
○北信越大会 二名出場
○南信新人戦 総合三位

来年度への期待をつないだ。内部通信(関魂)第二号の発行、二度のOB戦がおこなわれている。OBの高松クラブも活発意気盛ん、高野連審判として若手OBも活躍している。

(陸上) 三年 高野喜宏君

高校記録更新



高野

高野喜宏君、高校総体五千Mに於いて地元の大応援を背に終始トップグループを走り、四分四六秒四の好記録をもって、見事四位に入賞。特にクラスメイトが貸切バスにてかけつけ、

「飯田高野、走れビレンのよう」と書いた横断幕をかかげ声援した事が、美しい友情として観衆に強い印象を与えた。九月五日には一万Mで二年振りに県高校記録を更新、また東京新潟駅伝に於いて唯一人の高校選手として二日間好記録で走り力をつけてきたので、今後益々期待できる。

(追記)

地震にて負傷し、片足をなくされた宮下啓君は、現在奈良県職員として元気に勤務され、三十三回忌にも参列されたことを付記します。

(宮下)

昭和50年度飯田高校同窓会収入支出決算書

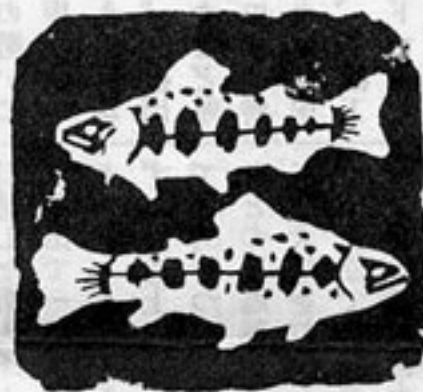
収入決算額	23,827,386円		
支出決算額	13,308,046円		
差引残額	10,519,340円	次年度へ繰越	
<収入内訳>		<支出内訳>	
入会金	579,000円	人事費	1,632,060円
維持会費	5,426,960	事務費	50,264
繰越金	3,127,477	弔儀費	52,220
雑収入	297,175	会議費	312,227
名簿送送料	767,750	通信費	450,051
広告料	7,230,000	印刷費	439,300
積立金	6,399,024	資料費	3,600
合計	23,827,386	旅費	47,000
		雑費	187,700
		名簿作成費	8,920,174
		名簿送料	1,213,450
		合計	13,308,046

昭和51年5月10日 会計監査 外松 淳・市瀬泰久

昭和51年度飯田高校同窓会収入支出予算書

収入予算額	14,408,840円		
支出予算額	14,408,840円		
差引残額	0円		
<収入内訳>		<支出内訳>	
入会金	559,500円	人事費	1,175,000円
繰越金	10,519,340	事務費	250,000
維持会費	3,000,000	弔儀費	65,000
名簿送送料	160,000	会議費	810,000
雑収入	170,000	通信費	1,250,000
合計	14,408,840	印刷費	350,000
		資料費	80,000
		旅費	80,000
		雑費	270,000
		名簿送送料	89,000
		名簿予備	9,989,840
		合計	14,408,840

沢城荘で 合同同級会



宮島好堅(中19回)

十一月七日午後一時半飯田駅集合、迎いのマイクロボスにて会場沢城荘へ。初めての試みで如何かと案じたが、「生むが易し」で、中学十五回より四名、十六回より二名、十七回六名、十八回六名、十九回六名の計二十五名、関東関西よりも勇躍参加。中島同窓会長(中17)の司会の挨拶、統一て自己紹介、お互い思わず我が一生を語り、酒間の興も盛り上り、更に隠し芸まで披露して和気藹々。殊に原太郎氏(中16)は先般英国の高令者マラソン大会にて世界第二位、名人の位を獲得した壯者を凌ぐ剛の者。五十才位に見える矍鑠たる容姿は、実に健康の見本。かくて興尽きぬままに池畔に立って校歌斉唱。懐かしいリズムは美しい夕焼け空に流れた。一同青春に返った気持ちで来年の再会を期して飯田駅で解散した。

××

事務局 だより

一、住所不明者の調査に御協力を

年間約八百名位が住所を変更されるようであるが最近自発的に御連絡を下さったり間接的にお知らせ下さって大変有難く感謝しております。しかし昨年の名簿発行時の不明者が約千六百余名で本年十月末現在には千八百五十名で約二百余名ふえております。千六百名近くはいわば根雪のようになっていて、これを解消させるまでに手が入らないというのが現状であります。何とか御協力をいただきました。お願いいたします。

特に若い会員にお願いしたいことは、異動の際郵便局へ届けておくとも一年間は回送してくれます。年二回の会報を出しておりますから転送されて行った時には振替用紙の備考欄へなり異動のことを書き足して下さいと有難いわけです。

二、幹事評議員の欠員補充
来年度は役員改選の年に当ります。各回選出の幹事評議員もこれに準じますので欠員を生じたり、交替の向きは来春までに考慮しておいていただきたい。特に次に掲げる数字は幹事・評議員であって現在地元に住な

い、不明の数であります。立っていただくよう御配慮願いたい。
該当の方は、地元へ戻られるまでの間、代理の方を願いたい。



中44回生の故人法要 (7面記事関連)

高	4回	1人
〃	6	2人
〃	8	1人
〃	13	2人
〃	18	2人
〃	19	1人
〃	20	4人
〃	21	4人
〃	22	9人
〃	23	6人
〃	24	11人
〃	25	11人
〃	26	11人
〃	27	10人

三、今回は維持会費の明細書は差し上げませんが未納の方は何分お願いします。

四、名簿の残部約百冊、希望者は事務局へお申し込みください。

編集後記

同窓会報十二号が出来上りました。もう少し早く発行する予定で準備を進めて来ましたが資料委員会の記事を書いたこととあってや、おくれましてしまいました。新しいグラウンドは考古学上の発掘が残り現在整備中で来年度は使用可能と思われまます。会員の皆様のご協力を深く感謝いたします。皆様の今後一層のご活躍をお祈り致します。